

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3391000092		
法人名	社会福祉法人 日翔会		
事業所名	グループホーム にいざと さくらの丘		
所在地	岡山県新見市神郷釜村1235番地1		
自己評価作成日	令和4年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3391000092-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3391000092-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年7月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームにいざとさくらの丘では、ご利用者が家庭的な雰囲気の中で安心して過ごして頂ける様、職員が考え、話し合い共有して支援しています。  
現在はコロナ禍ということもあり控えていますが、例年は地域行事や、公民館行事には常に声がかかり、活発に交流が来ています。  
ご利用者の希望をとり入れた行事企画を行い喜んで頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者が転倒することなく元気で過ごしてもらえるよう、事故を減少させる取り組みに力を入れている。管理者は、職員に些細な事でもインシデントの提出を求め、職員全員で予防対策を講じた。常にリスク管理を念頭に支援した結果、転倒が減少した。また、利用者の些細な変化も見逃さず、看護師と連携を図りながら早めの医療が受けられるようにしている。  
外出する機会が減少したため、年間で計画していた行事以外でも楽しんでもらえる企画に力を入れている。中華バイキングを計画した時は、手作りの回るテーブルを作成し、何度も試作を重ねた。事前アンケートで確認した食べたい物など数種類の料理を作成し、テーブルを回転させ好きな物を選んで食べてもらい大変好評だった。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	次年度へ向けて、年度末にはグループ理念を基にした年間目標や事業計画を作成し、職員に伝える場面を設けている。また、定期的な面接を行い、職員個人の目標設定と進捗面接を実施している。	理念に「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を掲げ、入職時に説明をしている。職員は、自分が施設に入居したらと過程し、その時に希望する介護を念頭に置きながら日々支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は地域の教育機関との交流があり、交流会や行事参加を行っていた。また、地域行事についても情報を取り、参加の機会を設けていた。地元の大規模なイベントには企画からの協力をしていたが、現在はコロナ禍の為外部との交流は控えている状況である。	年2回保育園児と交流を図っていたが、現在は中止している。園児が隣接するグラウンドに散歩に来た時は、窓越しにその様子を嬉しそうに眺めている。町内の人がグラウンドの草刈りに来た時は、トイレを利用してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新見市地域密着型事業所連絡会や地域ケア会議の活動を通して、事業所間での連携を重ね、この地域に住んでいる方々の暮らしを支援したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用状況や事故、取り組み等を報告し、委員からの助言や意見等を聞き、運営に反映させている。他事業所の取り組みなども聞かれ、大変勉強になっている。	運営推進会議委員に、行事の様子の写真を見てもらったり、インシデントやアクシデントの報告を行い、意見をもらっている。コロナ禍の為、運営推進会議は書面での開催となっているが、開催可能の際は、密にならないよう市民センターを借りて実施している。	運営推進会議委員の参加者が年々減少している。コロナ禍が落ち着き再開の目途が立てば、民生委員や学校の先生などに声を掛ける事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内に出掛けた時には市役所へ立ち寄り担当者や意見交換を行っている。懸案事項については相談に乗ってもらっている。良い関係が築けている。	書類等は郵送せず、できるだけ市の担当者会いに行き、相談ができる関係作りに努めている。市に避難計画を提出した際、小学校に避難するより事業所の近くにある廃校に避難した方が安全との助言をもらい、避難場所を変更することにした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針を作成。委員会を設置し、三ヶ月に一回の委員会を開催している。身体拘束の実例なし。	身体拘束や虐待についての勉強会も実施し、身体拘束をしないケアを実践している。自宅へ戻ろうとする利用者も居るが、話を聞きながら落ち着くまで一緒に歩いている。自宅の花が気になるとの理由が分かり、事業所で花を植え水やりしてもらった結果、現在は落ち着いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修による職員への周知を行った。虐待が発見された時などの対応はミーティング等で伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行ったが、制度の理解は薄い。今後の課題といえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービス利用におけるリスクも含め必ず十分な説明を行った上での同意を頂いている。この事についてはアンケートでも確認を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を設置し、職員にも苦情があった際の対応について指導している。また、サービスについてのアンケートも実施済みである。	面会や電話で要望等を尋ねてはいるが、さらに年1回家族アンケートを実施し、改善して欲しい点の把握に努めている。苦情担当者が誰か分からないとの意見があった為、重要事項説明書に記載はしているが、さらに玄関に貼り出した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に4回の面接、部署ミーティングと全体の職員会議を設け、職員の意見等を聞く場面を設定している。また、会議の場だけではなく日頃から意見を言える環境ができており、必要なものは活かしている。	面接の機会は年4回あるが、利用者が居室で昼寝をしている間等もコミュニケーションを図っている。職員ヒヤリングでも、管理者から声を掛けてくれ、何でも言いやすいと教えてもらった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面接を実施している。また、昇給についてもわかりやすく提示しており、職員のやりがいに繋がっている。資格取得の推進においても法人で勉強会を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとに教育訓練計画書を作成し、法人内外の研修や事業所勉強会の参加を計画的に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同一事業者同士の部会を設置しており、共通の課題に対する改善や相互研修を図り、サービス向上を目指している。新見市内地域密着型事業所連絡会も同様。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人の意向や要望については確認している。必ず家族から情報を頂き、本人の代弁を行うケースもある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に困りごとや要望については必ず確認し、情報の共有や記録に残すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用を開始するにあたり、早急な対応が望まれる物については、本人や家族と認識を共有し、プラン化している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現場でもいきいきと生活してもらう為の工夫を文化活動、家事等の手伝いを提案し一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を切らないように、行事等はいつでも本人と一緒に参加して頂けるようにしていた。現在はコロナ禍だが感染対策をしての面会や電話等で関わりを持っていただいている。また、ご家族には毎月手紙を送り、細かな情報を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様に対しては毎月1回の手紙と写真を送付している。また、日常の様子、行事での様子は写真に収め、フロア内に貼り出し、来所された家族や知人に見ていただくようにしている。	コロナ禍になる迄は、一筆箋で手紙を書いていたが、現在は事業所内での面会が難しい為、日常の様子を撮影した写真と日頃の様子を詳細に記載した手紙を送付している。手紙には、毎回ブログのQRコードを掲載している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係が保っていけるよう、レクリエーションやカルチャーと一緒に頂いたり、時には席替えを行って皆さんと触れ合える時間を多くとれるように働きかけています。又、洗濯畳み等一緒に軽作業をして頂いてそこからコミュニケーションが取れる様図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療により、サービスが終了した方についても相談員が経過を確認したり、その後のサービス利用についても相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り傍に行き、日常会話をしている。お客様に合った軽作業を提供することによって、自らの日課や役割として取り組んでいる方もおられる。年数回お客さまの希望を取り入れた企画を実施している。	日常会話から要望をくみ取っている。塗り絵が好きな利用者の為、本を購入し好きな絵を選んでもらっている。花や野菜を植えたいとの希望があり、花を植える企画を立て水やりも手伝ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族、前提供機関等から情報を頂き、記録にまとめ、職員が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報をまとめ、職員が共有できるようにしている。また、月2回の部署ミーティングは変化があった事等を共有し、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、カンファレンスを行い、評価を行っている。	半年毎にモニタリングを実施し、計画を作成している。月2回カンファレンスを実施し、不参加の職員には事前に利用者の課題を確認している。家族には、面会や電話で要望を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の勉強会を行ったりと毎日の様子について記録を充実させている。カンファレンスにてサービスの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向を踏まえて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍の為、外部との交流は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が希望される医療機関への受診をして頂いている。近場の診療所の受診については送迎を行っている。また、急な体調の変化等の場合には協力医療機関への受診を行っている。	かかりつけ医の変更は勧めず、利用者の状況を理解しているかかりつけ医の継続支援をしている。本人の変化を記載した手紙を家族から医師へ渡してもらっているが、職員が同行し説明をすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設された事業所に看護師をいるので体調等の変化があれば、すぐ相談できるような体制を取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に協力医療機関とは連携を図り、経過の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化され、その後の事業所でのサービス提供が困難になる場合は、同法人に限らず入所系サービス等の情報を家族に伝え、意向を踏まえた対応をしている。	入居時に、重度化した場合の対応について説明をしている。近隣に病院がないため、介護度が高くなった場合は、医療処置が可能な施設への申し込みを依頼している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備と定期的な研修を行い、職員には対応を周知させている。立てた対策の有効性を評価する為期間を設定し評価している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災についての避難訓練は年2回実施している。都度設定を替えあらゆる状況に対処出来る様に行っている。7月には、水害・土砂災害の対応として勉強会を行った。	火災の避難訓練は年2回。災害時の訓練は年1回実施している。毎回、時間帯や出火場所を変更し、どんな場面でも対応ができるように訓練を実施している。消防署にも参加してもらいアドバイスをもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の呼び方は法人で決めごとを作り、徹底している。プライバシーの取り扱いについても周知徹底している。	接遇の研修も行われ、大きな声で「トイレに行こう」、移乗時に「よいしょ」「重い」等は使用してはいけないと、言葉かけについても学んでいる。その後、自己評価と今後の取り組みを掲げ、研修の3カ月後に上司が評価をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の中でゆっくりとご利用者と話す機会もあるので、その中で聴かれた些細な事でも情報として共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活リズムに応じて声掛けや働きかけをさせて頂いているが、ご本人の自己決定を尊重しているので、ペースに合わせた生活ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、髭剃りはできるだけご本人にしてもらっている。最終の確認は職員が行い、一日身だしなみが整っているよう、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに理解して頂けるよう、献立の説明を行っている。材料を切ったり、皮むき、また、テーブルを拭いたり、お膳拭きなど簡単な軽作業を一緒に行っている。	嗜好調査を実施し、食べたい物、硬さも聞き取り、要望があればその人の好みに合った硬さや食べたい物を提供している。先日も中華バイキングを実施した。ラーメンが食べたいとの希望があった為、ミニラーメンも献立の一つに付け加えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立てている。食事量や水分量は毎日チェックして記録に残し、場合によっては補給できるようにしている。アレルギーや嫌いな物にも配慮し、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	アセスメントに従い職員で統一し、出来るところはして頂いて、難しい所の介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄パターン記録表を使い、個人の状況に応じた、誘導を行っている。	失禁の状態を確認し、パットの汚れが少なければ、リハビリパンツのみの対応をする等、利用者個々に合った支援をしている。援助が必要な場合は、下着を下げる等の介助をした後、排泄中は外で見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分摂取量にも注意して管理を行っている。個人によって便秘については主治医に相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予定はあるものの、本人の希望によって日時が変わる事は多い。個浴で1対1での入浴を徹底している。週2回は入浴を楽しんで頂いている。	毎回湯は入れ替え、さら湯で入浴してもらっている。入浴拒否の利用者も居たが、自然に入浴してもらえる声掛けを統一した結果、拒否も無くなった。脱衣の際は、直ぐにバスタオルを掛ける等、羞恥心にも配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅からこれまで使って来られた寝具を持ってきて頂いている。使い慣れた馴染みのもので安心されている。又、日中の活動によって夜間の安眠がとれる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変化については把握し、その日のミーティングで伝えるようにしている。薬効や副作用の確認ができるように個人カルテに情報を入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設横に農園を作ったり、カラオケや裁縫、家事等をご本人の希望に沿って提案している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は季節に応じた外出企画や買い物ツアーを取り入れていた。 現在はコロナ禍の為外出企画は控えているが、月1以上の企画、お客様のご希望を取り入れた企画を計画、実施している。	山に囲まれた事業所は、四季折々に変化するので、紅葉などを見ながら散歩をする。桜の時期には、外にテーブルと椅子を設置し、おやつを食べながら花見をした。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の現金は預かっていないが、外出等で必要な時は施設で立替を行い、買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月必ず写真入りの手紙で近況報告をしている。本人様が書かれたものをお便りと一緒に同封することもある。電話をつないだり、かかってきた電話に出てもらうようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての照明は暖色を使っている。居室も冷暖房を完備し、適切な室温になるよう配慮している。季節に応じた壁の装飾を行い、季節感を感じて頂けるようにしている。	毎月実施している行事の写真を廊下に貼りだし、利用者と職員は楽しかった思い出話をしている。利用者に手伝ってもらった季節の絵を飾り、季節を感じてもらっている。エアコンを付ける際は、利用者に風が直接当たらないよう、風向きにも気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーがあるので、気の合う方とゆっくり話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた馴染みのタンスや寝具、小物などを出来るだけ持ってきていただけるようにしているので、部屋ごとの特色が出ている。	使い慣れた家具や写真を持ち込んでもらい、在宅時のような雰囲気にも少しでも近づくよう工夫をしている。ベッドの向きなど、これまでの生活の継続性を意識した配置にしている。テレビや本を持ち込み、居室でゆっくり過ごす人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計でフロアや廊下等の生活スペースには手すりがあるので、安全に移動が出来る。		